

# 社会福祉法人 三鈴会

## 第1章 総 則

### (目的)

第1条 この社会福祉法人（以下、「法人」という。）は、多様な福祉サービスがその利用者の意向を尊重して総合的に提供されるよう創意工夫することにより、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、心身ともに健やかに育成され、又はその有する能力に応じ自立した日常生活を地域社会において営むことができるよう支援することを目的として、次の社会福祉事業を行う。

#### (1) 第1種社会福祉事業

(イ) 障害者支援施設の経営

#### (2) 第2種社会福祉事業

(イ) 障害福祉サービス事業の経営

(ロ) 特定相談支援事業の経営

(ハ) 障害児相談支援事業の経営

(ニ) 保育所の経営

### (名称)

第2条 この法人は、社会福祉法人三鈴会という。

### (経営の原則)

第3条 この法人は、社会福祉事業の主たる担い手としてふさわしい事業を确实、効果的かつ適正に行うため、自主的にその経営基盤の強化を図るとともに、その提供する福祉サービスの質の向上並びに事業経営の透明性の確保を図り、もって地域福祉の推進に努めるものとする。

### (事務所の所在地)

第4条 この法人の事務所を三重県鈴鹿市地子町600番地に置く。

## 第2章 評 議 員

### (評議員の定数)

第5条 この法人に評議員7名を置く。

### (評議員の選任及び解任)

第6条 この法人に評議員選任・解任委員会を置き、評議員の選任及び解任は、評議員選

任・解任委員会において行う。

- 2 評議員選任・解任委員会は、監事1名、事務局員1名、外部委員2名の合計4名で構成する。
- 3 選任候補者の推薦及び解任の提案は、理事会が行う。評議員選任・解任委員会の運営についての細則は、理事会において定める。
- 4 選任候補者の推薦及び解任の提案を行う場合には、当該者が評議員として適任及び不適任と判断した理由を委員に説明しなければならない。
- 5 評議員選任・解任委員会の決議は、委員の過半数が出席し、その過半数をもって行う。ただし、外部委員の1名以上が出席し、かつ、外部委員の1名以上が賛成することを要する。

#### (評議員の資格)

第7条 社会福祉法第40条第4項及び第5項を遵守するとともに、この法人の評議員のうちには、評議員のいずれか1人及びその親族その他特殊の関係がある者（租税特別措置法施行令第25条の17第6項第1号に規定するものをいう。以下同じ。）の合計数が、評議員総数（現在数）の3分の1を超えて含まれることになってはならない。

#### (評議員の任期)

- 第8条 評議員の任期は、選任後4年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとし、再任を妨げない。
- 2 任期の満了前に退任した評議員の補欠として選任された評議員の任期は、退任した評議員の任期の満了する時までとすることができる。
  - 3 評議員は、第5条に定める定数に足りなくなるときは、任期満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお評議員としての権利義務を有する。

#### (評議員の報酬等)

第9条 評議員に対して、各年度の総額が400,000円を超えない範囲で、評議員会において別に定める報酬等の支給の基準に従って算定した額を、報酬等として支給することができる。

### 第3章 評議員会

#### (構成)

第10条 評議員会は、全ての評議員をもって構成する。

(権限)

第11条 評議員会は、次の事項について決議する。

- (1) 理事及び監事の選任又は解任
- (2) 理事及び監事の報酬の額
- (3) 理事及び監事並びに評議員に対する報酬等の支給の基準
- (4) 計算書類（貸借対照表及び収支計算書）及び財産目録の承認
- (5) 定款の変更
- (6) 残余財産の処分
- (7) 基本財産の処分
- (8) 社会福祉充実計画の承認
- (9) 事業計画及び収支予算書
- (10) 臨機の措置（予算外の新たな義務の負担及び権利の放棄）
- (11) 解散
- (12) その他評議員会で決議するものとして法令又は定款で定められた事項

(開催)

第12条 評議員会は、定時評議員会として毎会計年度終了後3か月以内に1回開催するほか、必要がある場合に開催する。

(招集)

第13条 評議員会は、法令に別段の定めがある場合を除き、理事会の決議に基づき理事長が招集する。

2 評議員は、理事長に対し、評議員会の目的である事項及び招集の理由を示して、評議員会の招集を請求することができる。

(決議)

第14条 評議員会の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

2 前項の規定にかかわらず、次の決議は、決議について特別の利害関係を有する評議員を除く評議員の3分の2以上に当たる多数をもって行わなければならない。

- (1) 監事の解任
- (2) 定款の変更
- (3) その他法令で定められた事項

3 理事又は監事を選任する議案を決議するに際しては、各候補者ごとに第1項の決議を行わなければならない。理事又は監事の候補者の合計数が第16条に定める定数を上回

る場合には、過半数の賛成を得た候補者の中から得票数の多い順に定数の枠に達するまでの者を選任することとする。

- 4 第1項及び第2項の規定にかかわらず、評議員（当該事項について議決に加わることができるものに限る。）の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたときは、評議員会の決議があったものとみなす。

#### （議事録）

第15条 評議員会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

- 2 議長及び会議に出席した評議員のうちから選出された議事録署名人2名がこれに署名又は記名押印する。

### 第4章 役員及び職員

#### （役員の数）

第16条 この法人には、次の役員を置く。

- (1) 理事 6名
  - (2) 監事 2名
- 2 理事のうち1名を理事長とする。

#### （役員を選任）

第17条 理事及び監事は、評議員会の決議によって選任する。

- 2 理事長は、理事会の決議によって理事の中から選定する。

#### （役員資格）

第18条 社会福祉法第44条第6項を遵守するとともに、この法人の理事のうちには、理事のいずれか1人及びその親族その他特殊の関係がある者の合計数が、理事総数（現在数）の3分の1を超えて含まれることになってはならない。

- 2 社会福祉法第44条第7項を遵守するとともに、この法人の監事には、この法人の理事（その親族その他特殊の関係がある者を含む。）及び評議員（その親族その他特殊の関係がある者を含む。）並びに、この法人の職員が含まれてはならない。また、各監事は、相互に親族その他特殊の関係がある者であってはならない。

#### （理事の職務及び権限）

第19条 理事は、理事会を構成し、法令及びこの定款で定めるところにより、職務を執行する。

- 2 理事長は、法令及びこの定款で定めるところにより、この法人を代表し、その業務を

執行する。

- 3 理事長は、毎回会計年度に4か月を超える間隔で2回以上、自己の職務の執行の状況を理事会に報告しなければならない。

#### (監事の職務及び権限)

第20条 監事は、理事の職務の執行を監査し、法令で定めるところにより、監査報告を作成する。

- 2 監事は、いつでも、理事及び職員に対して事業の報告を求め、この法人の業務及び財産の状況の調査をすることができる。

#### (役員任期)

第21条 理事又は監事の任期は、選任後2年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時までとし、再任を妨げない。

- 2 補欠として選任された理事又は監事の任期は、前任者の任期の満了する時までとすることができる。
- 3 理事又は監事は、第16条に定める定数に足りなくなるときは、任期の満了又は辞任により退任した後も、新たに選任された者が就任するまで、なお理事又は監事としての権利義務を有する。

#### (役員解任)

第22条 理事又は監事が、次のいずれかに該当するときは、評議員会の決議によって解任することができる。

- (1) 職務上の義務に違反し、又は職務を怠ったとき
- (2) 心身の故障のため、職務の執行に支障があり、又はこれに堪えないとき。

#### (役員報酬等)

第23条 理事及び監事に対して、評議員会において別に定める総額の範囲内で、評議員会において別に定める報酬等の支給の基準に従って算定した額を、報酬等として支給することができる。

#### (職員)

第24条 この法人に、職員を置く。

- 2 この法人の設置経営する施設の長他の重要な職員（以下「施設長等」という。）は、理事会において、選任及び解任する。
- 3 施設長等以外の職員は、理事長が任免する。

## 第5章 理事会

### (構成)

第25条 理事会は、全ての理事をもって構成する。

### (権限)

第26条 理事会は、次の職務を行う。ただし、日常の業務として理事会が定めるものについては理事長が専決し、これを理事会に報告する。

- (1) この法人の業務執行の決定
- (2) 理事の職務の執行の監督
- (3) 理事長の選定及び解職

### (招集)

第27条 理事会は、理事長が招集する。

2 理事長が欠けたとき又は理事長に事故があるときは、各理事が理事会を招集する。

### (決議)

第28条 理事会の決議は、決議について特別の利害関係を有する理事を除く理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

2 前項の規定にかかわらず、理事（当該事項について議決に加わることができるものに限る。）の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたとき（監事が当該提案について異議を述べたときを除く。）は、理事会の決議があったものとみなす。

### (議事録)

第29条 理事会の議事については、法令で定めるところにより、議事録を作成する。

2 当該理事会に出席した理事長及び監事は、前項の議事録に署名又は記名押印する。

## 第6章 資産及び会計

### (資産の区分)

第30条 この法人の資産は、これを分けて基本財産とその他財産の2種とする。

2 基本財産は、次の各号に掲げる財産をもって構成する。

#### (1) 建 物

イ、鈴鹿市地子町字金生水600番地、607番地、610番地、鈴鹿市地子町字赤土904番地2、所在の

(イ) 鉄筋コンクリート造陸屋根2階建

しらさぎ園舎

1 棟

1,013.49㎡

(ロ)	鉄筋コンクリート造陸屋根平家建		
	機械室	1棟	25.35㎡
(ハ)	鉄骨造ルーフィング葺2階建		
	作業室	1棟	263.62㎡
(ニ)	鉄筋コンクリート造陸屋根平家建		
	ポンプ室	1棟	7.59㎡
ロ、	鈴鹿市地子町字金生水611番地所在の		
	鉄骨造スレート葺平家建		
	第2作業室	1棟	170.00㎡
ハ、	鈴鹿市地子町字金生水611番地所在の		
	木造スレートぶき平家建		
	作業場	1棟	229.60㎡
二、	津市河芸町影重字里中1140番地の1所在の		
	鉄筋コンクリート造スレート葺・陸屋根2階建		
	保育園舎	1棟	390.56㎡
ホ、	鈴鹿市地子町字赤土904番5所在の木造スレ		
	ートぶき平家建		
	障害者支援施設	1棟	151.86㎡

(2) 土地

イ	所在	鈴鹿市地子町字金生水
	地番	600番
	地目	宅地
	地積	1,094.21㎡
ロ	所在	鈴鹿市地子町字金生水
	地番	607番
	地目	宅地
	地積	330.57㎡
ハ	所在	鈴鹿市地子町字金生水
	地番	610番
	地目	宅地
	地積	158.67㎡
二	所在	鈴鹿市地子町字金生水
	地番	611番
	地目	宅地
	地積	1,054.54㎡

ホ	所 地 地 地	在 番 目 積	鈴鹿市地子町字赤土 903番 宅地 138.84㎡
ヘ	所 地 地 地	在 番 目 積	鈴鹿市地子町字赤土 904番2 雜種地 311㎡
ト	所 地 地 地	在 番 目 積	鈴鹿市地子町字金生水 591番1 畑 577㎡
チ	所 地 地 地	在 番 目 積	鈴鹿市地子町字金生水 592番1 畑 725㎡
リ	所 地 地 地	在 番 目 積	鈴鹿市地子町字金生水 595番1 畑 134㎡
ヌ	所 地 地 地	在 番 目 積	鈴鹿市地子町字赤土 900番 畑 991㎡
ル	所 地 地 地	在 番 目 積	鈴鹿市地子町字赤土 901番 畑 251㎡
ヲ	所 地 地 地	在 番 目 積	鈴鹿市地子町字赤土 904番5 雜種地 224㎡
ワ	所 地 地	在 番 目	津市河芸町影重字里中 1140番1 宅地



地積	483.11㎡
カ 所在	津市河芸町影重字里中
地番	1141番4
地目	宅地
地積	338.05㎡
ヨ 所在	津市河芸町影重字里中
地番	1141番1
地目	宅地
地積	458.74㎡

- 3 その他財産は、基本財産以外の財産とする。
- 4 基本財産に指定されて寄附された金品は、速やかに第2項に掲げるため、必要な手続きをとらなければならない。

#### (基本財産の処分)

第31条 基本財産を処分し、又は担保に供しようとするときは、理事総数（現在数）の3分の2以上の同意及び評議員会の承認を得て、三重県知事の承認を得なければならない。ただし、次の各号に掲げる場合には、三重県知事の承認は必要としない。

- (1) 独立行政法人福祉医療機構に対して基本財産を担保に供する場合
- (2) 独立行政法人福祉医療機構と協調融資（独立行政法人福祉医療機構の福祉貸付が行う施設整備のための資金に対する融資と併せて行う同一の財産を担保とする当該施設整備のための資金に対する融資をいう。以下同じ。）に関する契約を結んだ民間金融機関に対して基本財産を担保に供する場合（協調融資に係る担保に限る。）

#### (資産の管理)

- 第32条 この法人の資産は、理事会の定める方法により、理事長が管理する。
- 2 資産のうち現金は、確実な金融機関に預け入れ、確実な信託会社に信託し、又は確実な有価証券に換えて、保管する。
  - 3 前項の規定にかかわらず、基本財産以外の資産の現金の場合については、理事会の議決を経て、株式に換えて保管することができる。

#### (事業計画及び収支予算)

第33条 この法人の事業計画書及び収支予算書類については、毎会計年度開始の日の前日までに、理事長が作成し、理事総数（現在数）の3分の2以上の同意及び評議員会の承認を受けなければならない。これを変更する場合も、同様とする。

- 2 前項の書類については、主たる事務所に、当該会計年度が終了するまでの間備え置き、

一般の閲覧に供するものとする。

(事業報告及び決算)

第34条 この法人の事業報告及び決算については、毎会計年度終了後、理事長が次の書類を作成し、監事の監査を受けた上で、理事会の承認を受けなければならない。

- (1) 事業報告
- (2) 事業報告の附属明細書
- (3) 貸借対照表
- (4) 収支計算書(資金収支計算書及び事業活動計算書)
- (5) 貸借対照表及び収支計算書(資金収支計算書及び事業活動計算書)の附属明細書
- (6) 財産目録

2 前項の承認を受けた書類のうち、第1号、第3号、第4号及び第6号の書類については、定時評議員会に提出し、第1号の書類についてはその内容を報告し、その他の書類については、承認を受けなければならない。

3 第1項の書類のほか、次の書類を主たる事務所に5年間備え置き、一般の閲覧に供するとともに、定款を主たる事務所に備え置き、一般の閲覧に供するものとする。

- (1) 監査報告書
- (2) 理事及び監事並びに評議員の名簿
- (3) 理事及び監事並びに評議員の報酬等の支給の基準を記載した書類
- (4) 事業の概要等を記載した書類

(会計年度)

第35条 この法人の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日をもって終わる。

(会計処理の基準)

第36条 この法人の会計に関しては、法令等及びこの定款に定めのあるもののほか、理事会において定める経理規程により処理する。

(臨機の措置)

第37条 予算をもって定めるもののほか、新たに義務の負担をし、又は権利の放棄をしようとするときは、理事総数(現在数)の3分の2以上の同意及び評議員会の承認を受けなければならない。

(保有する株式に係る議決権の行使)

第38条 この法人が保有する株式(出資)に係る議決権を行使する場合には、あらかじめ

め理事会において理事総数（現在数）の3分の2以上の承認を要する。

## 第7章 解 散

（解散）

第39条 この法人は、社会福祉法第46条第1項第1号及び第3号から第6号までの解散事由により解散する。

（残余財産の帰属）

第40条 解散（合併又は破産による解散を除く。）した場合における残余財産は、評議員会の決議を得て、社会福祉法人並びに社会福祉事業を行う学校法人及び公益財団法人のうちから選出されたものに帰属する。

## 第8章 定款の変更

（定款の変更）

第41条 この定款を変更しようとするときは、評議員会の決議を得て、三重県知事の認可（社会福祉法第45条の36第2項に規定する厚生労働省令で定める事項に係るものを除く。）を受けなければならない。

2 前項の厚生労働省令で定める事項に係る定款の変更をしたときは、遅滞なくその旨を三重県知事に届けなければならない。

## 第9章 公告の方法その他

（公告の方法）

第42条 この法人の公告は、社会福祉法人三鈴会の掲示場に掲示するとともに、官報、新聞又は電子公告に掲載して行う。

（施行細則）

第43条 この定款の施行についての細則は、理事会において定める。

## 附 則

この法人の設立当初の役員は、次のとおりとする。ただし、この法人の成立後遅滞なく、この定款に基づき、役員の選任を行うものとする。

理 事 長	山 野 良 生
理 事	高 山 宗 俊
理 事	市 川 好

理	事	大	谷	光	司
理	事	馬	路	義	信
理	事	杉	本	広	海
理	事	杉	本	絹	子
監	事	美	浦	寿	光
監	事	百	々	好	雄

附 則

この定款は、三重県知事の届出受理日の日（昭和63年9月6日）から施行する。

附 則

この定款は、三重県知事の認可の日（昭和63年9月6日）から施行する。

附 則

この定款は、三重県知事の届出受理日の日（平成元年6月13日）から施行する。

附 則

この定款は、三重県知事の認可の日（平成5年6月21日）から施行する。

附 則

この定款は、三重県知事の認可の日（平成6年7月18日）から施行する。

附 則

この定款は、三重県知事の認可の日（平成10年2月23日）から施行する。

附 則

この定款は、三重県知事の認可の日（平成11年3月29日）から施行する。

附 則

この定款は、三重県知事の認可の日（平成13年3月23日）から施行する。

附 則

1. この定款は、三重県知事の認可の日（平成16年3月2日）から施行する。
2. 平成16年3月2日付の定款変更に伴い設けられた評議員の任期は、定款第17条第1項の規定にかかわらず、平成17年3月31日までとする。

附 則

この定款は、三重県知事の認可の日（平成17年3月22日）から施行する。

附 則

この定款は、三重県知事の認可の日（平成17年12月7日）から施行する。

附 則

この定款は、三重県知事の認可の日（平成21年1月30日）から施行する。

附 則

この定款は、三重県知事の届出受理日の日（平成21年7月3日）から施行する。

附 則

この定款は、三重県知事認可の日（平成23年1月25日）から施行する。

附 則

この定款は、三重県知事認可の日（平成24年5月10日）から施行する。

附 則

この定款は、三重県知事認可の日（平成25年2月22日）から施行する。

但し、第11条、第19条、第29条及び第30条の改正は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

この定款は、鈴鹿市長の認可の日（平成26年3月5日）から施行する。

附 則

この定款は、鈴鹿市長の届出受理日（平成28年6月20日）から施行する。

附 則

1 この定款は、合併による変更登記日（平成29年3月1日）から施行する。

2 新たに選出された理事及び評議員の任期は、定款第6条及び第17条の規定にかかわらず、平成29年3月31日までとする。

附 則

この定款は、三重県知事の認可を受け、平成29年4月1日から施行する。

附 則

この定款は、三重県知事認可の日（平成30年7月9日）から施行する。

附 則

この定款は、三重県知事認可の日（令和元年9月11日）から施行する。

## 社会福祉法人 三鈴会 役員等報酬規程

### (目的)

第1条 この規程は、社会福祉法人三鈴会（以下、「法人」という。）の定款第9条及び第23条の規定に基づき、役員及び評議員に支払われるの報酬等並びに費用の関し必要な事項を定め、もって、社会福祉に関する法律及び社会福祉法人の認可等に関する法律の規定に照らし、妥当性と透明性の確保を図ることを目的とする。

### (定義)

第2条 本規定でいう役員とは、理事及び監事をいう。

2 報酬は、法人と委任関係にある役員及び評議員等の職務執行の対価として支払われるものである。

### (理事会及び評議員会の出席報酬等)

第3条 理事が理事会に出席したときは、別表1により1日分の報酬を支払うことができる。

なお、同日にあわせて法人の業務を行った場合は、第4条の報酬はこれを支払わないものとする。

2 定款第28条第2項、理事（当該事項について議決に加わることができるものに限る。）の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたとき（監事が当該提案について異議を述べたときを除く。）は、理事会の議決があったものとみなす場合であっても報酬を支払うことができる。

3 理事並びに監事の報酬額は、各年度の総額が400,000円を超えない範囲で報酬として支給することができる。なお、報酬額は、所得税（3.063%）を差し引いた後の額とする。また、この報酬の額に会議等出席のための実費交通費や、職員を兼務している理事に対しての職員給与は含まれないものとする。

4 評議員が評議員会に出席したときは、別表1により1日分の報酬を支払うことができる。また、同日にあわせて法人の業務を行った場合は、第4条の報酬はこれを支払わないものとする。

5 定款第14条第4項、評議員（当該事項について議決に加わることができるものに限る。）の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示したときは、評議員の決議があったものとみなす場合であっても報酬を支払うことができる。

6 評議員は、各年度の総額が400,000円を超えない範囲で報酬として支給することができる。なお、報酬額は、所得税（3.063%）を差し引いた後の額とする。また、この報酬の額に会議等出席のための実費交通費は含まれないものとする。

### (役員及び評議員の勤務報酬等)

第4条 理事等が理事会（出席）以外の日において、理事長の命を受けて法人及び施設の運営のための業務にあたった場合は、別表2により報酬を払うことができる。

2 評議員が評議員会（出席）以外の日において、理事長の命を受けて法人及び施設の運営のための業務にあたった場合は、別表2により報酬を支払うことができる。

(監事及び内部監査人の報酬)

第5条 監事及び内部監査人が理事会に出席したときは、別表1により1日分の報酬を支払うことができる。また、同日にあわせて監事及び内部経理監査業務を行った場合であっても報酬を支払わないものとする。

2 監事及び内部監査人が理事会(出席)以外の日において、法人及び施設の指導検査への立会及び運営状況の指導または監査の業務にあたった場合は、別表2により報酬を支払うことができる。

(苦情解決制度第三者委員の勤務報酬等)

第6条 苦情解決制度第三者委員が理事会及び評議員に出席したときは、別表1により1日分の報酬を支払うことができる。また、同日にあわせて苦情解決制度第三者委員に係る業務を行った場合であっても報酬を支払わないものとする。

2 苦情解決制度第三者委員が理事会及び評議員会(出席)以外の日において、法人及び施設に係る苦情対応の業務にあたった場合は、別表2により報酬を支払うことができる。

(出張旅費)

第7条 役員及び評議員が、法人業務のため出張する場合は、別表3により報酬及び旅費等を支給することができる。

2 旅費は、実費を支給する。

3 業務遂行に必要な経費を、実費を原則として支給できる。

4 旅費は実情を考慮し、増額することができる。

5 旅費等は原則として、出張終了後支払うこととするが、必要により事前に概算額を支払い、出張終了後精算することができる。

(適用除外)

第8条 施設の職員を兼務する理事は、この規程は適用しない。

(改廃)

第9条 本規程の改廃は、評議員会の議決を経て行う。

(補則)

第10条 この規程の実施に関し必要な事項は、理事会の承認を得て、理事長が定める。

附 則

この規則は、昭和60年 4月1日から適用する。

この規則は、平成 2年 4月1日から適用する。

この規則は、平成 7年 4月1日から適用する。

この規則は、平成12年 4月1日から適用する。

この規則は、平成18年12月6日から適用する。

この規程は、平成27年 4月1日から適用する。

この規程は、平成29年 6月14日から適用する。

この規定は、平成30年 3月27日から適用する。

役員報酬 別表1 (日額)

名 称	報 酬	備 考
理事会出席報酬等	10,000円	
評議員会出席報酬等	10,000円	

別表2 (日額)

名 称	報 酬	備 考
理事及び評議員業務報酬等	10,000円	
監事及び内部監査人監査指導報酬等	10,000円	
苦情解決第三者委員業務報酬等	10,000円	

別表3 (日額)

旅 費	宿泊費	報 酬	その他
実 費	13,000円	10,000円	実 費

備考：別表1・2・3の報酬額は、所得税（3.063%）を差し引いた後の額とする。